鎌　倉　市

津波ハザードマップ

県想定明応型地震による浸水の深さ

凡例

- 10.0m以上
- 8.0m以上10.0m未満
- 5.0m以上 8.0m未満
- 4.0m以上 5.0m未満
- 3.0m以上 4.0m未満
- 2.0m以上 3.0m未満
- 1.2m以上 2.0m未満
- 0.5m以上 1.2m未満
- 0.5m未満

神奈川県による新たな浸水予測図（平成24年3月公表）をもとに作成

南海トラフ巨大地震と県想定南関東地震による想定浸水範囲

- 南海トラフを震源とする巨大地震の想定浸水範囲
  中央防災会議「南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）」（平成24年8月29日発表）のうち、鎌倉市への影響が最も大きくなるケースを採用
- 県想定南関東地震の想定浸水範囲
  神奈川県による新たな浸水予測図（平成24年3月公表）による

凡　例

避難施設

（　）内は、その場所の海抜値です。

- 避難所（ミニ防災拠点）
  状況に応じて市の判断で開設します。
- 補助避難所
  避難所（ミニ防災拠点）に収容することが不可能な場合に開設します。
- 津波来襲時緊急避難空地
  津波の発生が予想され、緊急的な避難が必要となったときの一時的な避難施設（屋外）です。
- 津波来襲時緊急避難建築物（津波避難ビル）
  津波の発生が予想され、緊急的な避難が必要となったときの一時的な避難施設（屋内）です。
- 一時滞在施設（帰宅困難者用）
  災害発生により帰宅の手段を失い、駅の周辺・市街地・社寺・名所旧跡などに滞留している人のために開設します。
- 福祉避難所
  避難所（ミニ防災拠点）や補助避難所に収容することが困難な、要援護高齢者や障害者のために開設します。
- 広域避難場所
  火災の延焼拡大による炎や煙などから、一時的に身を守る空地です。

公共施設

- 市役所
- 行政センター
- 警察署・交番・駐在所
- 消防署・消防出張所
- 防災行政用無線
- JR鉄道　　私鉄

その他

- 津波注意看板（数値は設置場所の海抜値）
- 海岸からあがる階段・スロープ
- 参考避難経路
  鎌倉の山の岩盤は柔らかく崩落しやすい箇所があります。地震発生後の状況で判断して、行動してください。
- 河川遡上のおそれがある箇所

・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。
（承認番号　平24情使、第711号）
・鎌倉市全体図の背景の地図には、鎌倉市都市計画基本図（平成21年度作成）を使用しました。

・藤沢市内の避難施設は「藤沢市津波避難情報マップ（平成23年10月）」を参考
・逗子市内の避難施設は「逗子市津波ハザードマップ（平成24年度版）」を参考

過去の津波記録

- 元禄地震1703年の津波記録がある位置
- 大正関東地震1923年の津波記録がある位置

1 乱橋材木座
津波は最初豆腐川に浸入し、急速に400m位沖合まで引き去った。そして、和賀江嶋が長く半島状に露出するとその約20分後に再び来襲して豆腐川を中心に付近一帯の家屋や護岸を破壊し、補陀洛寺辺りまで浸入したという。
『鎌倉震災誌』

2 乱橋材木座
延命寺付近に達したという（滑川を遡上したのだろうか）
『鎌倉震災誌』・羽鳥（1991）

3 由比ガ浜
滑川では海岸橋が流され、橋上方の低地より東方一帯の田畑に海水が入ったという。
『鎌倉震災誌』

4 由比ガ浜
海岸橋の四つ角に漁船が1艘打ち上がったという。
『鎌倉震災誌』

5 由比ガ浜
江ノ電の旧由比ヶ浜停留所（現長谷5号踏切付近）で、濡れた女性の遺体が確認されたという。ここまで津波が到達したと推測できる。
『大正鎌倉餘話』

6 長谷
第2震のおよそ20分後、はるか沖合に大波が現れた。その時、稲瀬川付近の砂浜には被災者数十名がいたが、全て避難したという。さらに、河口周辺では多くの家屋や護岸が流された。
『大正鎌倉餘話』

7 坂ノ下
津波被害は海月楼とその周辺が激しく、家屋がほとんど破壊された。さらに県道（現星の井通り）の北側に達したという。
『鎌倉震災誌』

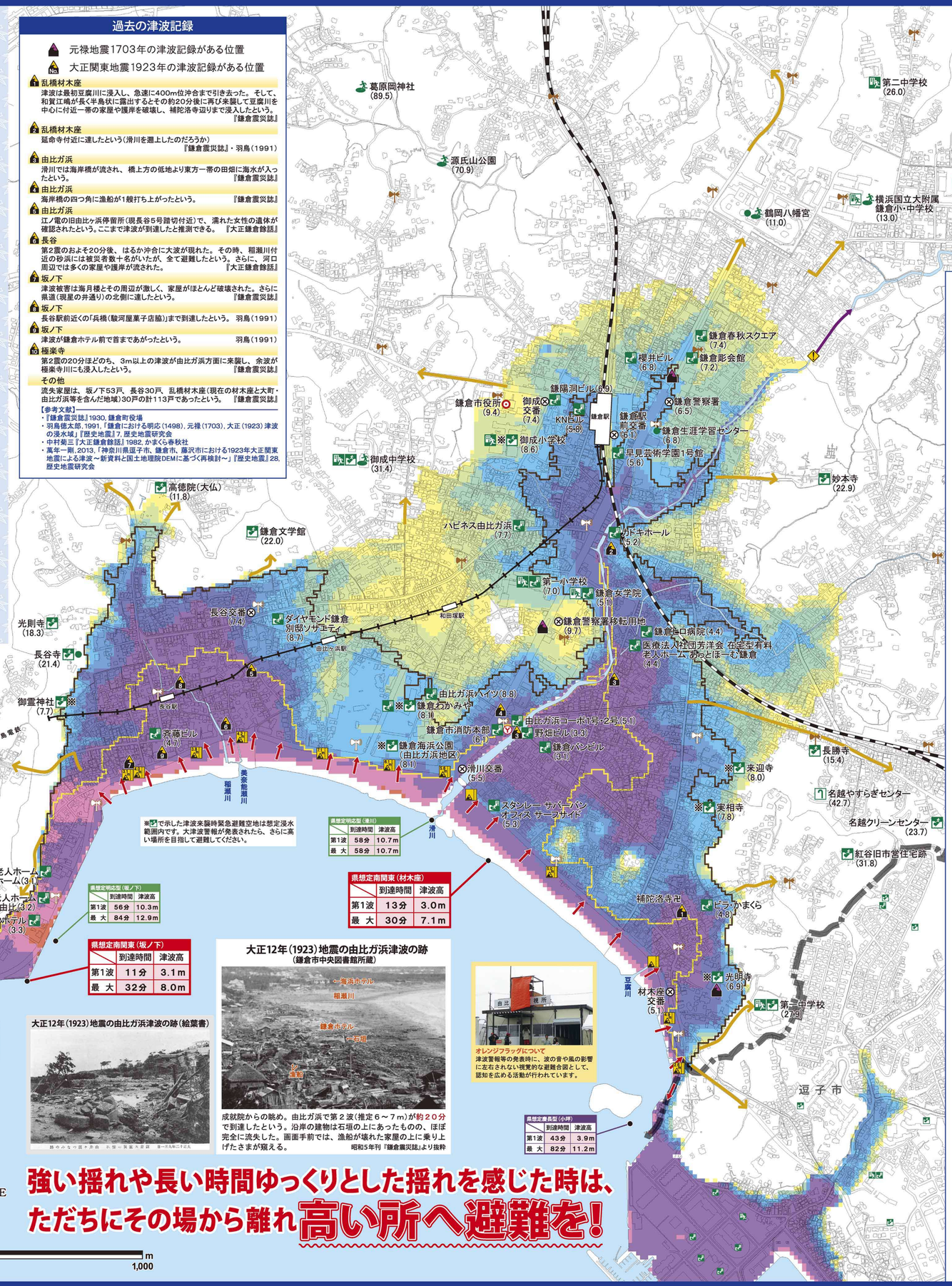
8 坂ノ下
長谷駅前近くの「兵橋（駿河屋菓子店脇）」まで到達したという。　羽鳥（1991）

9 坂ノ下
津波が鎌倉ホテル前で首までかがったという。　羽鳥（1991）

10 極楽寺
第2震の20分ほどのち、3m以上の津波が由比ガ浜方面に来襲し、余波が極楽寺川にも浸入したという。
『鎌倉震災誌』

その他
流失家屋は、坂ノ下53戸、長谷30戸、乱橋材木座（現在の材木座と大町・由比ガ浜等を含んだ地域）30戸の計113戸であったという。
『鎌倉震災誌』

【参考文献】
・『鎌倉震災誌』1930, 鎌倉町役場
・羽鳥徳太郎, 1991,「鎌倉における明応（1498）, 元禄（1703）, 大正（1923）津波の浸水域」『歴史地震』7, 歴史地震研究会
・中村俊三「大正鎌倉餘話」1982, かまくら春秋社
・萬年一剛, 2013,「神奈川県逗子市、鎌倉市、藤沢市における1923年大正関東地震による津波～新資料と国土地理院DEMに基づく再検討～」『歴史地震』28, 歴史地震研究会



※で示した津波来襲時緊急避難空地は想定浸水範囲内です。大津波警報が発表されたら、さらに高い場所を目指して避難してください。

県想定明応型（滑川）	到達時間	津波高
第1波	58分	10.7m
最　大	58分	10.7m

県想定明応型（坂ノ下）	到達時間	津波高
第1波	56分	10.3m
最　大	84分	12.9m

県想定南関東（坂ノ下）	到達時間	津波高
第1波	11分	3.1m
最　大	32分	8.0m

県想定南関東（材木座）	到達時間	津波高
第1波	13分	3.0m
最　大	30分	7.1m

県想定南関東（稲村ガ崎）	到達時間	津波高
第1波	10分	3.6m
最　大	30分	6.2m

到達時間と津波高は神奈川県の想定結果に基づくもので、地図上に示した位置（海と陸の境界付近）での値です。
なお、津波高は海抜で表しています。

県想定長尾型（坂ノ下）	到達時間	津波高
第1波	43分	4.5m
最　大	80分	14.5m

県想定明応型（稲村ガ崎）	到達時間	津波高
第1波	56分	9.7m
最　大	56分	9.7m

県想定長尾型（稲村ガ崎）	到達時間	津波高
第1波	43分	4.2m
最　大	78分	10.2m

県想定南関東（小坪）	到達時間	津波高
第1波	43分	3.9m
最　大	82分	11.2m

大正12年（1923）地震の由比ガ浜津波の跡（絵葉書）

大正12年（1923）地震の由比ガ浜津波の跡
（鎌倉市中央図書館所蔵）

成就院からの眺め。由比ガ浜で第２波（推定６～７m）が約２０分で到達したという。沿岸の建物は石垣の上にあったものの、ほぼ完全に流失した。画面手前では、漁船が壊れた家屋の上に乗り上げたさまが窺える。　昭和５年刊『鎌倉震災誌』より抜粋

オレンジフラッグについて
津波警報等の発表時に、波の音や風の影響に左右されない視覚的な避難合図として、認知を広める活動が行われています。

津波避難のこころがまえ

小さな揺れだったり揺れを感じたりしなくても、大きな津波に襲われることがあります。
津波警報等が発表されたら速やかに高い場所へ避難し、解除されるまでは海岸に近づかないで下さい。

地震が起きたら、まず避難！

強い地震、また弱い地震でも長い時間ゆっくりとした揺れの場合は、**ただちに安全な高い場所へ避難**しましょう！

揺れがなくても襲ってくる！

地震を感じなくても、津波警報等が発表されたら**ただちに高い場所へ避難**しましょう！

情報を待っていては、逃げ遅れる！

テレビ・ラジオなどの情報を待っていると避難に間に合わないことがあるので、**まず安全な高い場所へ避難してから**情報確認するよう心がけましょう！

浸水の深さが浅くても危険！

津波は、勢いのある水のかたまりが押し寄せてくる現象です。したがって、浸水の程度が浅くても、歩行が困難となります。流れが速い場合は、立っていることも困難になり、流されてしまう可能性もあります。

津波警報等が解除されるまでは海岸に近づかない！

津波警報等が発表されたら、**海水浴や磯釣りは中止して、すぐに高い場所を目指し、避難して下さい。**津波は短時間で襲ってくる場合もあります。また、繰り返し来襲し、第１波よりも第２波、第３波の方が高くなることもあります。

正しい情報を入手しよう！

- ●テレビ・ラジオ
- ●緊急速報メール（エリアメール）
- ●鎌倉市防災・安全情報メール配信
- ●防災行政用無線　など

市から配信される情報を活用し、正しい情報を入手しましょう。また、安全に避難ができるよう、市では、津波注意看板、海抜表示板、津波避難経路路面シート、津波避難ビル標識を設置しています。

避難時には、これらを参考に**高台への避難**を心がけましょう。

安全な避難のために

市では、津波による浸水の危険性や、安全な避難を促すための様々な取り組みを行っています。

津波注意看板・海抜表示板

市は、津波注意看板や海抜表示板をとりつけています。

津波注意看板

海抜表示板

津波避難経路路面シート

安全な避難誘導のために、避難施設へと向かう道路に津波避難経路の路面シートを貼っています。

津波避難経路路面シート

津波避難ビル標識

市が協定を締結した津波来襲時緊急避難建築物（津波避難ビル）には、図に示す標識を設置しています。

津波避難ビル標識

強い揺れや長い時間ゆっくりとした揺れを感じた時は、ただちにその場から離れ高い所へ避難を！

N　W　E　S

1/6,500

0　250　500　1,000 m

鎌倉市　防災安全部　総合防災課
〒248-8686
神奈川県鎌倉市御成町18-10
TEL.0467-23-3000（内線2614・2615）
FAX.0467-23-3373
http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/

平成25年3月作成